

おとさだ  
**乙貞**

第258号 通巻45第1号  
令和7（2025）年4月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター  
〒524-0212 守山市服部町2250番地

TEL&Fax 077（585）4397  
Mail [maizobunkazai@city.moriyama.lg.jp](mailto:maizobunkazai@city.moriyama.lg.jp)

春暖を体感できる時季になりました。今頃の長雨は、ちょうど菜の花、つまり菜種の花が咲くことから、菜種梅雨と呼ばれています。モンスーンアジア北東端に位置する日本列島の穏やかな雨季の先がけでもあります。

さて、琵琶湖岸のみさき公園では、比良山系を背景に寒咲花菜が早春の絶景を醸し出しています。映えのするスポットとして多くの人々を魅了していますが、かつては、日本全国の其処かしこで見られた光景です。江戸時代になって、照明具の行灯の灯油として菜種油が使われたことから、換金作物として、搾油用の菜の花が栽培されるようになります。大正3年（1914）に唱歌になった朧月夜の冒頭は菜の花畠と綴られています。菜の花は畑ではなく畠、乾いて白くなった水田に裏作として栽培されていたことが想像できます。

ところで、米価が高騰している現在の水稻作付け面積は約136万ha、朧月夜が歌われ始めた時代には300万haを超えていて、稲の収穫後の広大な水田には、こぞって麦や菜の花が作付けされました。麦の緑色や菜の花の黄色、水田の地力を高めるために植えられたレンゲの花の紅色の色彩で埋め尽くされた田植え前の田園風景は、稲作を生業とした人々が作りだした春の情景に他なりません。それでは、前号以降の発掘調査成果とイベント情報をお伝えいたします。

## 発掘調査だより

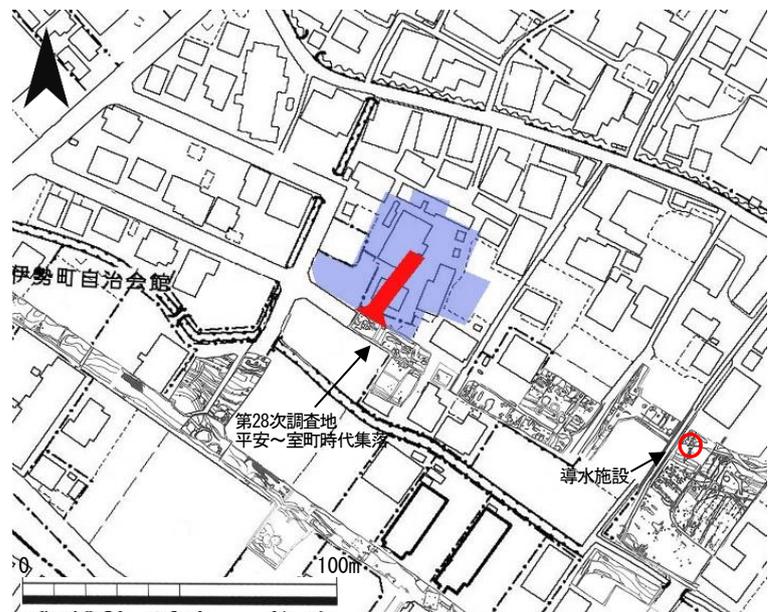
### 伊勢遺跡第141次調査

前号でも掲載しました伊勢遺跡141次調査は、2月5日に終了しました。今回の調査では、検出遺構平面図（次頁掲載）のとおり、弥生時代後期、古墳時代、中世（鎌倉～室町時代）、そして、安土桃山時代の溝や柱穴、土坑を検出しました。

SD-2は古墳時代の時期、この溝と切り合い関係のあるSD-1は奈良時代の時期が考えられます。

調査区を東西方向に横断するSD-4～13は、中世（鎌倉～室町時代）の溝で、調査区を南北に伸びるSD-3は、SK-1～3を除く検出遺構を切り込んでいます。幅約3m、深さ80cmの規模を測り、土師器皿や瓦器塀、黒色土器塀、羽釜、播鉢、陶器、青磁などの出土品から安土桃山時代の時期を想定できます。

その他、多数検出した柱穴のうち、SP8、9の底には礎石が据えられていることから、明確にはできませんが、掘立柱建物の存在を想定することができます。



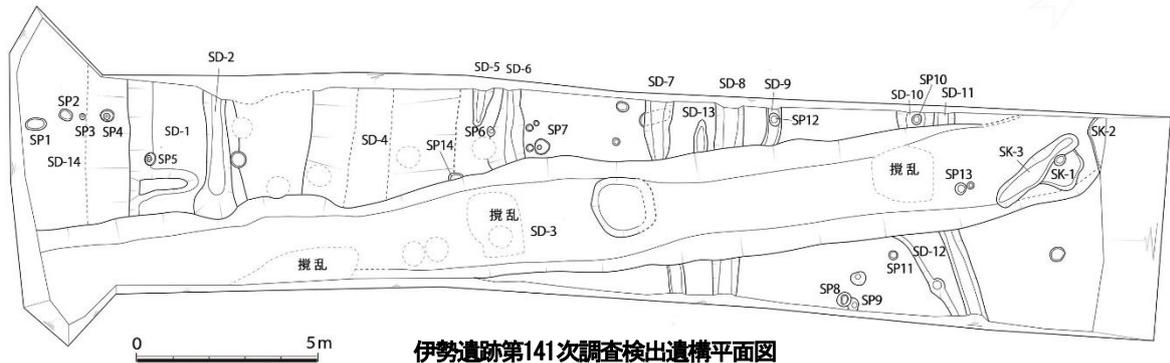
第28次調査検出遺構と第141次調査地（■調査地 ■開発範囲）

以上が調査の概要です。調査前に期待していた、当地東側で検出されている導水施設に関連する遺構は残念ながら検出されませんでした。

しかし、平成5年以降の土地区画整理事業に伴う第28次調査で、今回の調査地に隣接する道路などが調査され、平安時代後期～室町時代の集落跡が検出されています。今回の検出遺構の多くは、その広がりと理解することができます。(沖田)



伊勢遺跡第141次調査地全景写真



伊勢遺跡第141次調査検出遺構平面図

## 令和6年度調査のまとめ

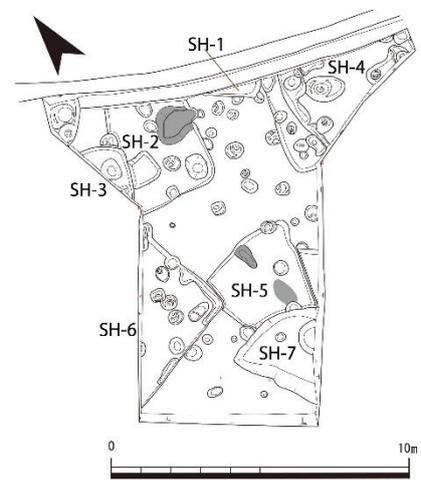
令和6年度の発掘調査は、4頁の図表のとおり、6遺跡8地点で実施しました。前年と比較すると、調査件数は28件から8件と大幅に減少しています。個人住宅建築に先立つ調査が22件から4件に減っていることによります。なお、(公財)滋賀県文化財保護協会が工場建設に先立って、横江遺跡と笠原南遺跡の発掘調査を実施していますが、ここには含まれていません。

それでは、これまでの乙貞でお伝えした3調査の成果を今一度、まとめてみたいと思います。

### 【赤目遺跡第19次調査】

宅地造成に先立ち実施した第19次調査では、道路予定地部分約100㎡という狭隘な調査地から、竪穴建物7棟(SH-1～7)や掘立柱建物1棟などが濃密な状態で検出されました。

検出遺構は古墳時代後期の時期が想定できます。7棟の竪穴建物はその重複関係や近接状態から、契機的に建て替えられたことが考えられます。



赤目遺跡第19次調査検出遺構平面図



赤目遺跡第19次調査 竪穴建物検出写真

れたことが考えられます。

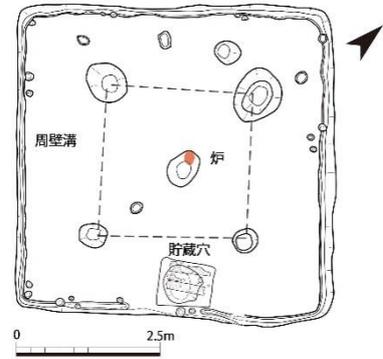
これまでの赤目遺跡の調査でも、古墳時代後期の竪穴建物が数多く見つかっています。ちょうどカマド導入の時期であることや、今回のように3～5棟ほどが切り合い関係をもつ検出状況は、赤目遺跡北東側に近接する吉身北、吉身南遺跡の古墳時代後期集落と共通性が見られ、両遺跡と同一集落を形成していたのではないかと考えられます。

### 【吉身西遺跡第136次調査】

下之郷三丁目字下鎌田で実施した本調査では、2棟の竪穴建物（SH-1、2）を検出しました。そのうちSH-1（掲載写真・図）は、一辺約5.5mの方形建物で床面からは四周する周壁溝や支柱穴の他、中央に炉跡、東南辺中位には貯蔵穴を検出しています。もう1棟のSH-2も規模や床面配置が近似していて、古墳時代前期に併存していた竪穴建物と考えられます。

SH-1の調査では、貯蔵穴直上で約80×95cmの板材の痕跡が検出され、貯蔵穴を覆う蓋板と考えることができました。

蓋板を伴う貯蔵穴の検出例としては、栗東市岩畑遺跡で4世紀後半、東近江市麻生遺跡で5世紀後半の竪穴建物の、いずれも建物隅の貯蔵穴で蓋板が検出されています。今回のように建物辺中位にある貯蔵穴もまた、屋内空間を有効活用するために蓋をしていたことが想定されていましたが、そのことを裏付けた調査成果といえます。

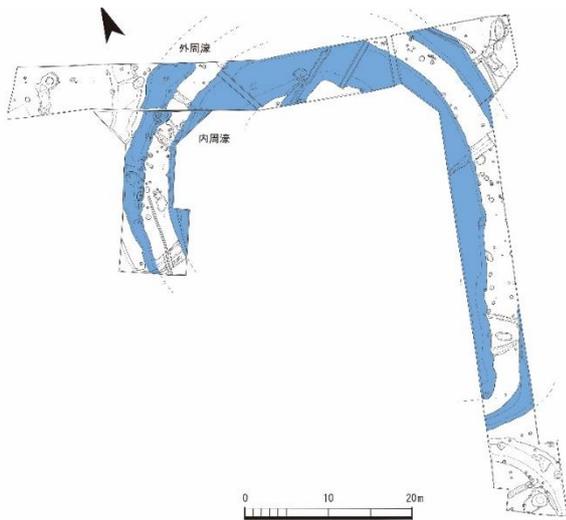


吉身西遺跡第136次調査検出SH-1

### 【阿比留遺跡第6次調査】

この調査では、古墳2基を検出しました。そのうちの1号墳の周濠からは、コウヤマキの石見型木製品、笠形木製品などの木製立物が、もう1基の古墳からは人物埴輪をはじめとする形象埴輪や円筒埴輪が出土したことを6月号以降の乙貞でお伝えしてきました。あえて言うならば、令和6年度で一番の調査成果といえます。

石見型木製品などの木製立物が出土した古墳は、全面を調査することができませんでしたが、墳丘長40m以上、二重の周濠が巡り、外周濠を含めると60m近い規模を推定することができ、市



阿比留遺跡1号墳検出平面図

内の埋没古墳にあって最大規模で、墳形については前方後円墳の可能性が示唆されています。

さて、木製立物が出土する古墳は、全国で30例程に過ぎません。石見型木製品に限れば、全国17例を数え、その大多数を占める奈良県以外では、今回の阿比留遺跡と初例となる服部遺跡、野洲市大塚山古墳、林ノ腰古墳で出土している野洲川流域が突出しています。

このことから、古墳に木製立物が樹立されることは普遍性に乏しく、ヤマト王権の版図全域で築造された前方後円墳のように波及せず、重要視した地域で採用された可能性が考えられます。



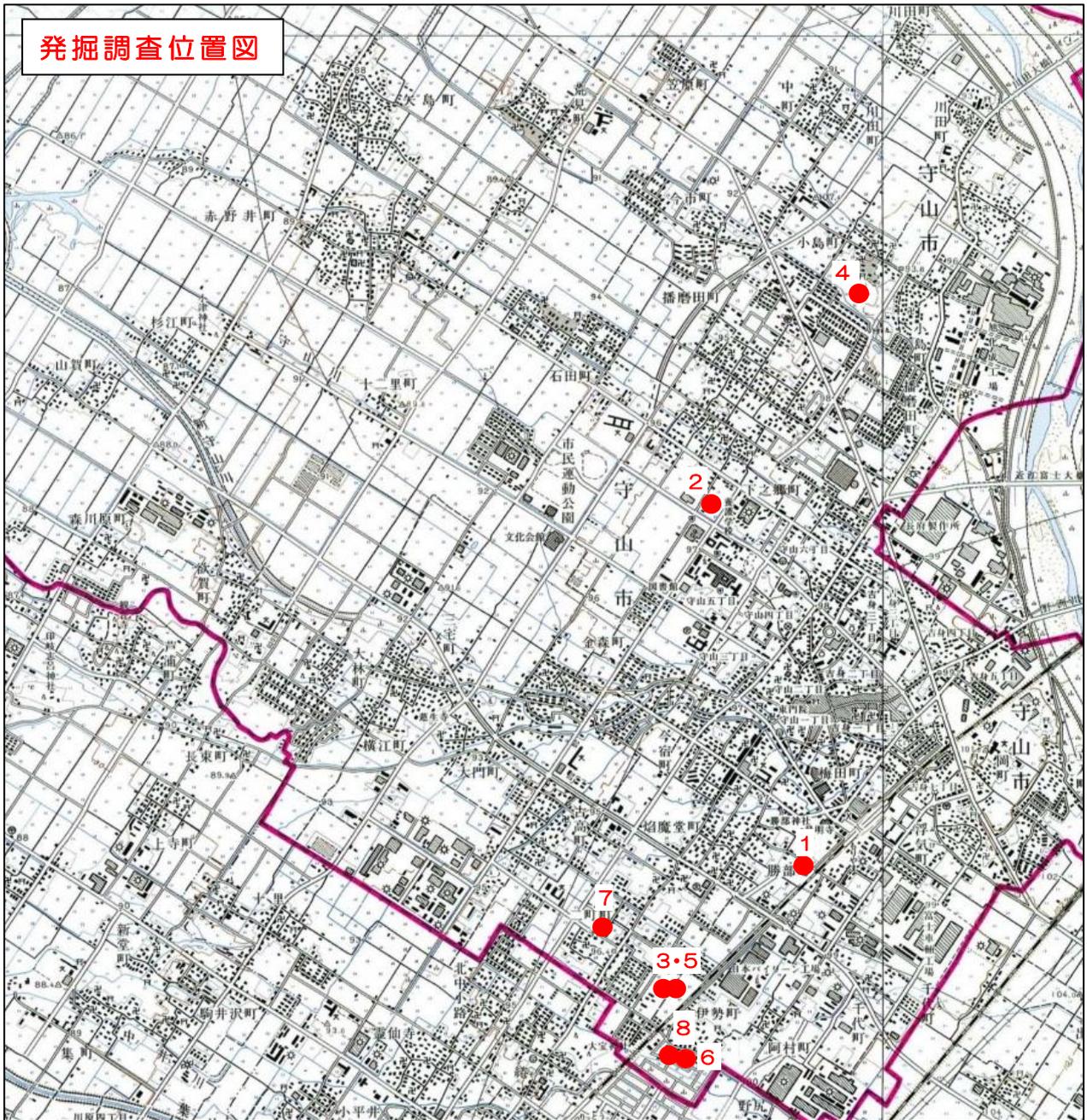
阿比留遺跡6次調査検出遺構・埴輪出土写真

# 令和6年度 発掘調査一覧表

(着手順・調査面積は概数・㎡)

番号	遺跡名 (調査回数)	調査所在地	調査面積 / 開発面積(㎡)	調査期間	調査種別	調査原因	担当	乙貞掲載
1	赤目遺跡 (19)	勝部二丁目字坊ノ内	100/1,576	2024.4.15~5.8	受託事業	宅地造成	畑本	253
2	吉身西遺跡 (136)	下之郷三丁目字鎌田	270/1,500	2024.4.25~5.22	受託事業	宅地造成	沖田	254
3	高関遺跡(17)-伊勢遺跡(138)	伊勢町字辻・鍵田	32/155	2024.5.22	国庫補助	個人住宅	佐々木	
4	阿比留遺跡 (6)	小島町字塚生	2,700/12,600	2024.6.10~3.27	受託事業	宅地造成	畑本	254~257
5	高関遺跡(18)-伊勢遺跡(139)	伊勢町字辻・鍵田	30/155	2024.7.4	国庫補助	個人住宅	佐々木	251
6	伊勢遺跡 (140)	伊勢町字東浦	34/113	2024.11.8	国庫補助	個人住宅	佐々木	
7	二町鏡遺跡 (25)	古高町字塚越	49/181	2024.12.13	国庫補助	個人住宅	佐々木	
8	伊勢遺跡 (141)	伊勢町字東浦	200/2,200	2025.1.15~2.5	受託事業	宅地造成	沖田	257

## 発掘調査位置図



## 春季講演会・歴史入門講座・秋季講演会開催のご案内

令和7年度も春季講演会・歴史入門講座・秋季講演会、都合8講演会の開催を計画しています。5月17日（土）開催の春季講演会は埋蔵文化財調査成果から離れ、古文書などの美術工芸品の視座から守山の歴史について、井上ひろ美さんに講演していただきます。

4月16日（水）より受講受付を開始します。ぜひご参加ください。

### 令和7年度歴史入門講座 / 春季・秋季講演会 開催のご案内

春季講演会 4月16日（水）より受講受付中

5月17日（土）14:00～「魅力発見！守山市の文化財-美術工芸品-」

井上 ひろ美 氏（守山市文化財保護審議会委員・文化遺産フロンニング代表）

5月15日（木）より受付開始！歴史入門講座 毎第3土曜日午前10時開講

①講 6月21日（土）「横江遺跡 令和の大発掘」

小林 裕季氏（〔公財〕滋賀県文化財保護協会）

②講 7月19日（土）「藤原仲麻呂と近江」

田中 久雄氏（大津市文化財保護課）

③講 8月16日（土）「坂本城跡の最新調査成果」

岡田 有矢氏（大津市文化財保護課）

④講 9月20日（土）「安土城の発掘調査～平成の調査から令和の調査へ」

岩橋 隆浩氏（滋賀県文化財保護課）

⑤講 12月20日（土）「滋賀県下における猿投窯産須恵器の流入 - 古墳時代から飛鳥・奈良時代にかけて」

高島 悠希氏（〔公財〕滋賀県文化財保護協会）

⑥講 1月17日（土）「発掘された古代の文字資料 - 笠原南遺跡とその周辺から-」

木下 義信氏（〔公財〕滋賀県文化財保護協会）

秋季講演会 9月18日（木）受講受付開始

11月15日（土）14:00～

「湖南地域の古墳文化と渡来人たちの邂逅」

金 守大 氏（滋賀県立大学准教授）

#### info

開催場所：守山市立埋蔵文化財センター2階会議室

受講定員：いずれも80名（事前の受講申し込み必要）

受講料等：春季・秋季講演会は受講無料/歴史入門講座は受講料200円/講

お問い合わせ・受講申し込み

守山市立埋蔵文化財センター

守山市服部町2250番地

受付時間 午前9:00～午後4:00（毎週火曜日は休館日）

TEL&Fax 077(585)4397

Email : maizobunkazai@city.moriyama.lg.jp

## 友の会見学会を開催しました！

令和6年度最後となる第5回見学会を3月7日（金）に開催、和歌山県紀伊風土記の丘と根来寺を探訪しました。守山を降りしきる雪の中、出発しましたが、和歌山は絶好の見学日和となり、参加者は散策の多い日程を満喫されていました。

律令時代以降、和歌山は四国4県、淡路島とともに南海道に、一方の私たちの住む滋賀県は甲信、東北地方と同じ東山道に行政区分されていた地勢によるものなのか、同じ近畿地方でありながら、今も息づいている独自



紀伊風土記の丘での参加者全員の記念撮影



午前の見学先 岩橋千塚古墳群（左）・午後の見学先 根来寺大塔



の文化を体感した反面、比叡山延暦寺、かたや高野山という平安仏教の聖地を持つ共通性から、根来寺の見学では親近感を覚えました。

友の会では、今後とも現地に赴くことによって見分を広める活動を行っていきたいと思います。

興味のある方の入会をお待ちしています。

【後記】2年余り前の出来事で記憶に新しいと思いますが、淀川河口に迷い込んだマッコウクジラが話題を呼びました。淀ちゃんと名づけられ親しまれましたが、その後衰弱死したため、その死骸は紀伊水道沖の深海底に沈められました。クジラの亡骸が深海の海底に沈むことをホエールフォールと呼んでいます。果てしなく広がる海底でホエールフォールに遭遇することは滅多にない幸運で、鯨肉が栄養資源として分解され骨だけになる過程で多様な生物が屯する特殊な世界が数年に渡り形成されます。この現象は鯨骨生物群集と呼ばれています。

地球上最大の動物であるクジラが死して、その屍が無機質な海底に一点の営みを生み出す自然の節理を目の当たりにした時、世界最大級の墓、古墳を想起しました。守山市内では現存古墳4基に対し、100基を優に超す中小の埋没古墳が発見されています。禁足の禁忌が解かれた古墳は墳丘土で周濠を埋め立て可耕地化されたり、平地化の梃子に合わない巨大古墳は段々畑として耕作されたりと、古墳もまた、ホエールフォールよろしく新たな営みを生みます。

そのような思案の折に、「古墳は鯨か？」という小見出しを立てたコラムが目にとまりました。戦後復興の兆しを見せた1954年に、百舌鳥古墳群ニサンザイ古墳の陪塚・こうじ山古墳を一坪一円で手に入れ、墳丘土を切り崩しては建材として売却すること2年、ついには更地となった3百坪を一坪千円ほどの宅地として売却し大きな利益を生み出した事を、鯨肉、鯨油のみならず、骨やヒゲまで無駄なく商品とし、巨万の富を生む日本の捕鯨文化に比喻したものでした。

日本列島には、群集墳を含め15万基もの古墳が残存すると言われています。膨大な数ですが、現存古墳を凌駕する程の古墳が埋没していることは想像に難くありません。阿比留遺跡の石見型木製品が出土した古墳もその一つです。平野部に築かれた古墳は、史跡指定される古墳、宮内庁所管の陵墓や陵墓参考地以外の丘陵に築かれた古墳や、祠や社が建ち信仰の対象となっている古墳さえもいつ何時消滅の憂き目に晒されてもおかしくありません。

（馬耳東風）